

(社) 日本原子力学会 標準委員会 原子燃料サイクル専門部会  
第9回 放射性廃棄物管理分科会 (F2SC) 議事録

1. 日時 平成13年11月30日 (金) 13:30~17:40

2. 場所 (社) 日本原子力学会 会議室

3. 出席者 (敬称略)

(出席委員) 森山 (主査), 小川 (副主査), 藤原 (幹事), 上田, 大江, 坂下, 佐々木, 武部, 豊原, 馬原, 本山, 山本, 吉田 (13名)

(代理出席委員) 石井 (苅込委員代理) (1名)

(欠席委員) 出光, 油井 (2名)

(事務局) 市園

4. 配付資料

F2SC9-1 第8回 放射性廃棄物管理分科会議事録 (案)

F2SC9-2 標準委員会の活動状況

F2SC9-3 標準委員会運営内規及び標準委員会専門部会運営通則の改定について

F2SC9-4 収着分配係数の測定方法—浅地層土壌等を対象としたバッチ法 (案)

F2SC9-5 収着分配係数の測定方法—浅地層土壌等を対象としたバッチ法 (案) に対する関係者レビューコメント一覧

F2SC9-6 分配係数の測定法—バッチ法 (案) に対する原子燃料サイクル専門部会委員コメント

F2SC9-7 分配係数の測定法—バッチ法 (案) に対する標準委員会委員コメント

F2SC9-8 日本原子力学会標準制定スケジュール (案) (原子燃料サイクル専門部会関係)

F2SC9-9 活動方針改訂スケジュール

F2SC9-10 第4章と第5章の内容、記述の比較

5. 議事

(1) 出席委員の確認

事務局より、出席者の確認の結果、16名の委員中13名の委員と1名の代理委員の出席があり、決議に必要な委員数(11名以上)を満足している旨の報告が行われた。

(2) 前回議事録の確認

前回議事録の確認を行い、承認された。(F2SC9-1)

(3) 標準委員会等の活動状況報告

事務局より標準委員会等の活動状況報告及び標準委員会運営内規/専門部会運営通則の改定内容の説明があった。

(F2SC9-2,3)

(4) 標準原案の審議

武部委員より、分配係数に造詣が深い方々及び関係機関の方々へのレビュー依頼に対するコメント及び対応案並びに専門部会委員、標準委員会委員コメント及び対応案について説明があった。主な意見を以下に示す。(F2SC9-4,5,6,7)

a) 本体

- ・ 「まえがき」は大江委員にて英文を含め修正案の作成を行う。
- ・ 定義の「分配係数」は「収着分配係数」とする。
- ・ 標準名称の変更に伴い、定義の「浅地層土壌等」は「バリア材」に変更する。
- ・ 定義の「天然バリア」の最終行は削除する。
- ・ 定義の「人工バリア」から「コンクリート」を削除し、「セメント系材料」及び「ベントナイト系材料」とする。
- ・ 5.2 e) 3) 反応時間(T)の最終行は重複のため削除し、「固液接触を開始時間から固液分離時間までの時間とする」を追記する。

b) 解説

- ・ VII 5.2 e) 4) 設定温度に測定対象の現地温度に関する記載を追加する。
- ・ VII 5.4 a) 分配係数の計算方法に温度の影響について追記する。
- ・ VII 5.5.3 c) 実験水の化学的特性に関する事項にA3レベルを基本とし、固有の条件について配慮することについて追記する。
- ・ 「あとがき」は学会標準としての立場として修正を行う。

c) 関係者レビューコメント一覧

- ・ コメント頂いた方々へ回答案としてコメント対応欄の再確認が必要である。
- ・ ベンチマークテスト化、標準試料の作成は今後の課題としたい。
- ・ 分配係数が反応の平衡定数ではないことなど用語の定義に追記した。

d) 標準名称

サブタイトルを検討し、「収着分配係数の測定方法－浅地中処分のバリア材を対象としたバッチ法の基本手順」を分科会原案とした。

(5) 標準分科会原案の決議について

森山主査より第6回原子燃料サイクル専門部会及び第9回標準委員会における中間報告結果及び関係者レビュー結果を踏まえ、分科会原案として決議することが提案され全会一致で承認された。なお、分科会原案及びコメント一覧表に対する追加コメントについては、武部委員まで送付することとなり、追加コメントの反映については森山主査へ一任された。また、第8回原子燃料サイクル専門部会への報告は、森山主査及び武部委員にて対応することとなった。

(6) 参考資料の取扱について

豊原委員より参考資料記載事項に関する問題点確認状況の報告があった。コメント等は豊原委員へ送付することとし、標準の修正に伴う参考資料の修正については、2月の原子燃料サイクル専門部会提出を目標に別途幹事を中心に作業を行うこととなった。(F2SC9-10)

(7) 原子燃料サイクル専門部会活動方針の改訂について

事務局より原子燃料サイクル専門部会にて活動方針の改訂について検討が開始された旨の報告があり、専門部会及び同タスクグループから提案されている平成14年度以降に作成を行う標準案件候補の紹介があった。更に、タスクグループでは、放射性廃棄物に関する標準案件候補として深地層岩石等を対象とした分配係数測定法を原子燃料サイクル専門部会へ提案する方向であるとの紹介があり、コメント等あれば事務局まで送付することとなった。(F2SC9-9)

(8) 今後の予定

参考資料の修正状況及び専門部会等の審議コメント対応により適宜分科会を開催することとなり、別途連絡することとなった。(F2SC9-8)

以上